

生産性の向上を目指して林業を「儲かる」産業へ

【資源活用課】 中部森林管理局では、局大会議室(3月6日)と木曾森林管理署多目的ホール(3月7日)の二会場で、管内の素材生産事業者や県等からの参加者を得て「生産性向上実現プログラム取組事例発表会」を開催しました。

発表会では、地域の林業事業者の底上げとなる普及活動として、今年度の優良な取組事例について発表を行いました。

最優秀賞を受賞した木曾土建工業(株)では、現場の状況に応じた人員配置による生産性の向上を目指して、作業の単純化、マルチ技能者の育成等により、目標生産性 8m³/人日に対し 16m³/人日と、非常に高い生産性を達成しました。

優秀賞を受賞した(有)北原土木は、GPS・GIS等を活用し、作業区域を5ブロック24区画に分け効率的に搬出するアイデアが評価され、同じく優秀賞を受賞した飛騨高山森林組合は、列状間伐において、集材距離・集材本数による工期調査を実施し効率的な作業を構築する取組が評価されました。

中部森林管理局では、生産性だけでなく有利採材や安全な労働環境の改善も含め、意欲と能力のある林業経営体を育成し、林業を「儲かる」産業にできるよう引き続き取組を行うこととしています。



2台のグラップルの連携で
効率よく集造材する現場

広葉樹の価値を再認識！有利販売検討会を開催

【名古屋事務所】 3月1日、小林三之助商店各務原営業所において広葉樹等の有利販売に向けた検討会を開催し、若手職員を中心に11名が参加しました。

検討会は土場に並べられた原木を前に、樹種毎の主な用途や最近の需要動向、事前に出された質問に対する回答を市場の方から説明を受けつつ、意見交換や質疑応答を行う形で進められました。

「枝の上か下のどちらで切った方が良いか」、「細くても価値がある樹種は何か」といった質問や「構造材と木工用の区別判断も必要になる」、「長級は樹種によっても検討が必要」などと有利販売に向け意見を交わす場面も見られました。

ともすればパルプ向けの材として判断してしまいがちな広葉樹やモミ等の針葉樹ですが、市場ではスギやヒノキより高額となることも多いことから市場のニーズを知り、価値感を見直すことで有利販売に繋げていけることを確認する機会になりました。

また、午後からは同じ団地内で操業している親和木材工業の広葉樹製材工場に場所を移し、南洋広葉樹の製材工程と主な用途などについて会社の方より説明を受けました。オペレーターが原木に合わせて木取りしていく製材は最近では珍しく、手際よく製材されていく工程を参加者は興味深く見学しました。

この会社は多少質の悪い材でも価値を見いだす工夫に取り組んでおり、スギの効用を利用した空気清浄機開発などについても説明いただきました。



木取りについて
説明を受ける参加者